



生花枝抄

42

多
1413



門ヲ刻
孫
1413
卷

子家統卜家道署

百執
追か
生也
枝抄抄

東家書院板



明治四十二年七月一日
執行弘道
氏寄贈



竊尔業と執りて文昭乃て其喜
活也の規則を定むるは梅咲阿
より其業の仙也其業よあるは
毫一はより東山の東求堂一
ましく北山の園子なるは東山
福安をけりて其業よ世よ東山
きて其業の凡雅の及も中へ
樹の中は茶道か其業の
恐也一と其業の抑入むと其業

無とせしむるなりし書院座がけりし
いふはあつたといふも世よ是とせむと
稱しゆらぬ予先祖行胤相公より傳來
源氏乃も論よ、**右院**座座とせむと
系座のむハも座とに今世との抛入系む
とけいけしと懸念も是なりしを源氏花法
外家よ志るなりしあつた予とせむ
信との道と起し宝曆乃と後嘉治信と
よりしと今京都よ來りしととの今座座と

信しと教よより世よ信との座とせむと
御く古より座と系座とを御く一流の教
おとりするよなるなり道に抛入は種との流を
發進しと教と大よすといふも書院の作
法しと何とに只今令乃一貴とありのとなり
源氏信といふも、**右院**座座とせむと信
物となつた神と教し天下泰平祈禱の
花法あると古座よは五具是三つ是より
しとと祝壽乃ありしとと思かたり

附等者くりくを多し函くくくは活き
少く死活のきは活きとなすはきハ賢儀
法を立くくく活きキ一とすやいよも又也
乃手入をきくくれハ終日のかかりしは
なりくくく仍く鼻くくくも乃書を出く
好者の一助とすれなり度土も表宏道
瓶史張謙徳く瓶花譜なりともものき
ものこと記く挿花の法式も今世
よは流りくくく茶を抛入とすぬく生もの

作法とりハ相公乃定めぬひく原氏のも論
書院粧のむくも誠よお胡れむくくく予
原氏も花巻の中相公所秘考乃宝巻も
乃加えれむ入とも論の書評紙それなり
代く侍来せしむくくく前編原氏活き記
くくあくくく編百瓶の号は書林の舎
席のむ形と字く今うまきく書くく追か
よはむくも書くく好人の書く人書院
かぬ茶席ホ乃心持とくけくく書業を

みちむうんせとまういんぬむれ奥をひん
ぞくめんたるんしと枝折抄と号とまう

松翁齋法橋

安永二 千葉竜卜

癸巳の山

梅日



七十子翁

野村二味書

書院向座を并み席ホの花差別

書院の花とよと常よ座をよいろむと別也
座をよいろ花とみ席の花とよいけのこ又
ふより却て世の人花形大なりあれ書院向の
花とよのかさむとみ席地入とよ予とよし
生花と弘めんゝ為り宝曆年中法花會とい
き成はしけん大なる花形とらびきりく會席の振
り一は事とまうとせりよ事世とよみよとまう心
古遠と号て花形とゆとらめしてあし一會遠と

ひれしきもやれ通来しし人々大形のいと
書院向の花よのこるえさる人多し書院より
花とほりしよと真の鏡五具足之具足二幅
之幅対木の程り謝す意し花送しし若別あり
活方と傳あり昔は盆石木の取合いはれおる
祝事としし貴族の答意の席とあはし
花形の用捨もあり又會花しよとすも千三
集あも入し程しれおぬふ大中小とをま
らるる書院の法式よりけまきしひも

毎例の事なり也生花と法式よりて座程し
来しに挿入しと昂真の祝物より先之清と
花送しきくは清くもさく花形も富貴の姿
きくし花敷多しししししししししししし
清く二もしししししししししししししし
粧の活花とさきししししししししししし
ゆし富貴の花ししししししししししし
ししししししししししししししししし
限るししししししししししししししし

ゆへに活方仕立別傳あり此傳授よりして種多
いづれも誤多しと思して所を向のむりも
そのらぬ肝要あり早種より入木の客よりた
よりいかにまきしある色一才一花は入るの場
や一才二花ある花形は配り入やうなるありむ
と煉事ありも中二花はよくははくは曲折
索とくは種一花はよくははくは曲折
計とくは平利とくは埋とくはまきよとの作法は
あつたは花は物ともたは仕立かゝるあり出生よ

あつたは花はよくははくは曲折
中種中よ花の茎はよくははくは曲折
いづれも誤多しと思して所を向のむりも
そのらぬ肝要あり早種より入木の客よりた
よりいかにまきしある色一才一花は入るの場
や一才二花ある花形は配り入やうなるありむ
と煉事ありも中二花はよくははくは曲折
索とくは種一花はよくははくは曲折
計とくは平利とくは埋とくはまきよとの作法は
あつたは花は物ともたは仕立かゝるあり出生よ

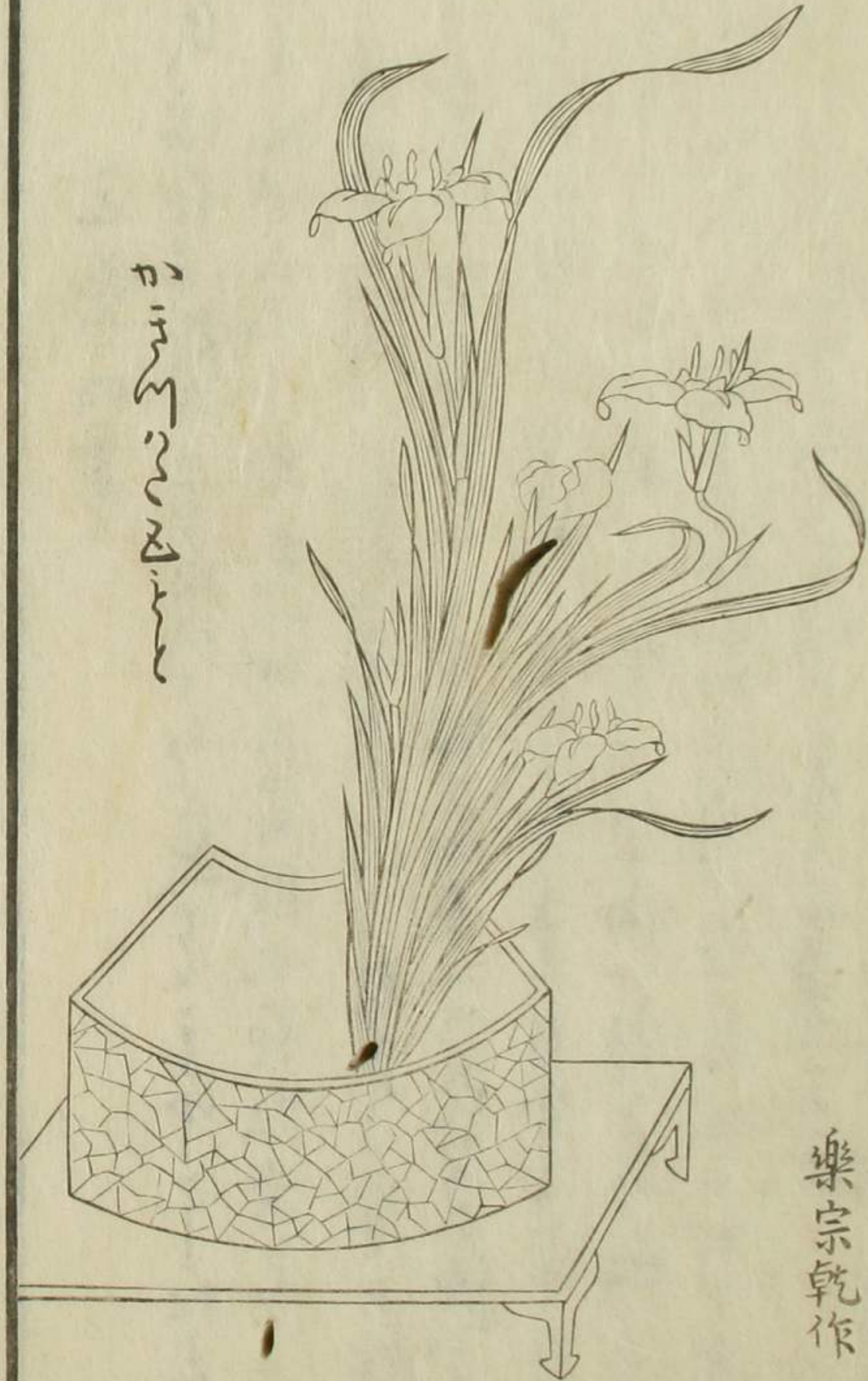
主居



菊之

花罌青磁無地

客位



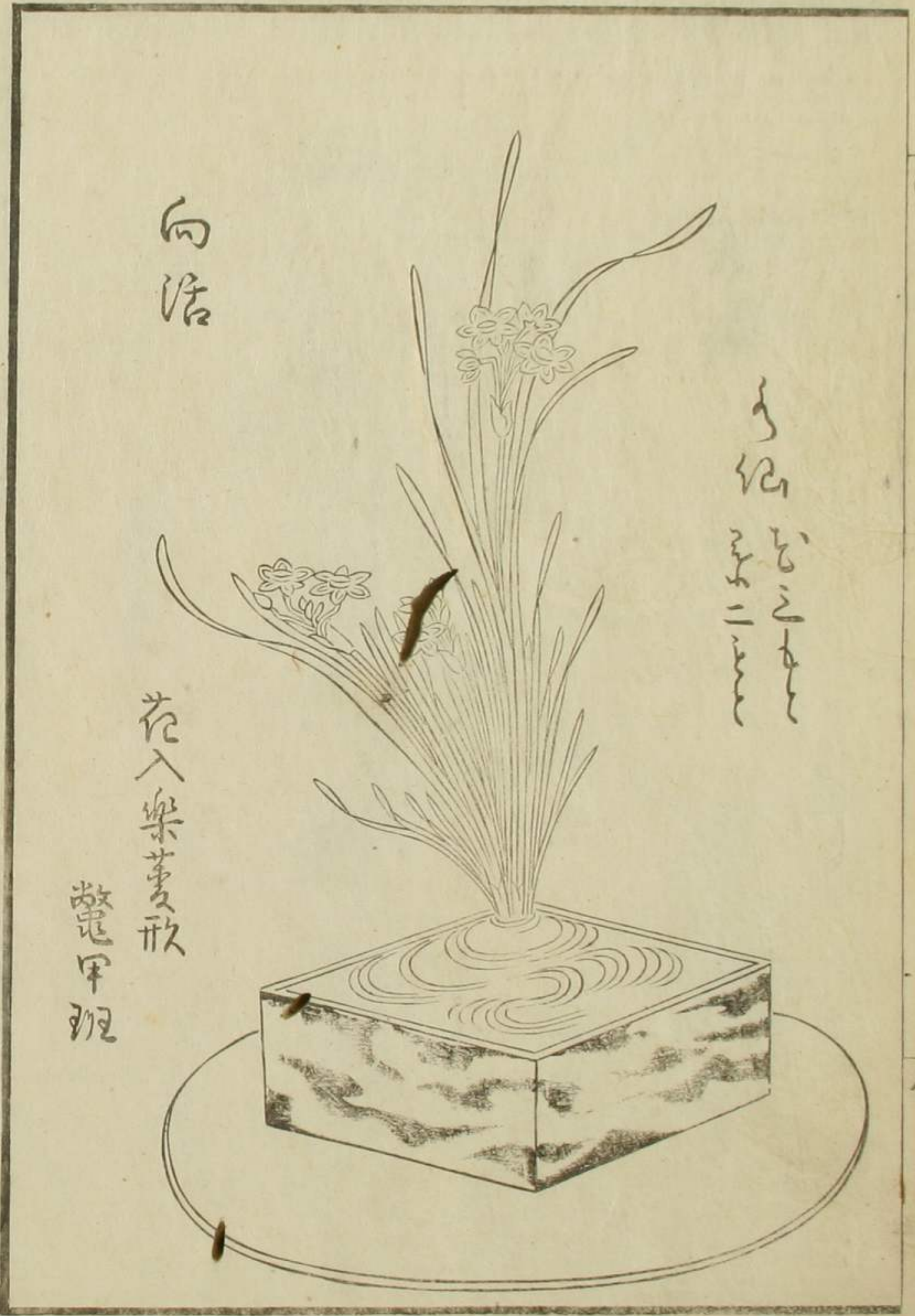
菖蒲

東都初會之花罌

地紙形白樂

樂宗乾作

生花よく大秘傳と云ふ松竹梅紅山石を蘭の志桂
 の事と蘇編活花記よく云く云々一ぬ今世河骨の傳といひ
 我朝神秘の花として祝美才一神祕のいと云々此
 花は活きり勿漏物宅移流の花といはるるいあし
 志く一い洋蓮と云弱くも揚るるといゆ一色り
 けふ金くは傳授あつても祝美と云うは此の正と云
 るは高くはよ事せしるる人稀なりも揚やういふ
 ありといふも此の秘傳といふも事と極秘傳なり
 此秘伝の事東氏も園橋の向佃を席うて山人花舎を
 傳へし云々云々云々此の秘傳といふも揚やうい
 へるるいふも此の秘傳といふも人感と云うなり此時



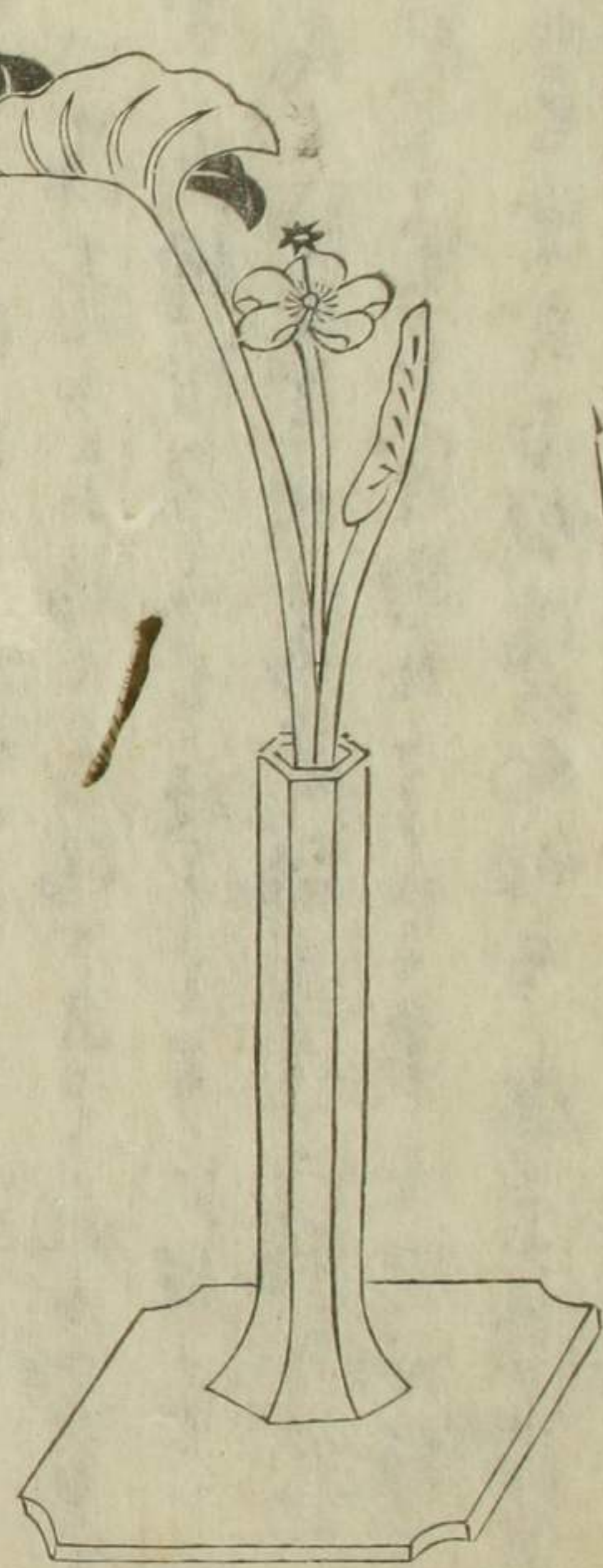
白活

白活
 花入楽菱形
 盤甲班

花入楽菱形

盤甲班

會席の花形等のこと〜を此席に用ゐるてり〜
 身の内々知りていふ



萍蓬 初をよ一牧
 花器黄樂細口六角 樂宗乾作
 花臺皆朱隅切角

活花に用れる草木名寄

い 垂絲様 以耆尾 棘 鹿杖 絲芒
 ろ 蠟梅

ハ 白頂花 花水剣 紫羅欄 貝母 荊棘

免兒傘 天竺花 錦帶花 薄荷

木芙蓉 葭 佛頂菊 馬齒 葉蘭

蓮花 菡萏 芍药 藕荷

芰荷 荷錢

に

郁李 玉帶花 陸英 接骨木 衛茅

忍冬

ほ

牡丹 鳳仙花 木瓜 厚朴 當草 杜鵑草

星降梅

へ

夜合 紅花 薔竹 景天

と

剪草 木賊 楨桐 歐蘭 山礬 草烏頭

燈心草

ち

長春花 瑞香 茗花 孩兒菊 丁子茄

り

林檎花 龍膽

ぬ

楠

る

春婆草 瑠璃草

を

万年青 園萍蓬 卷丹 劉寄奴

白木 金沸花 旋覆花 紫菀 紫葉薊

慈姑 刺女郎花 敗醬 躑躅草 萩

わ

迎春 地榆 萱草 黃芩

か

海棠花 柰 剪春羅 萍蓬 浮薔

燕子花	冬菊	莎草	使君子	藤葛
土茯苓	蒲唐松草	射干	烏扇子	楓
鷄冠木	寒竹	寒梅	姜薤	青蒿
野菊	樺	水楊	風車	鳳足
葭	薺蒿	白芷		
檀特草	蒲公英	大黃	玉蔓	竹
連壳	列珠樹			
蘇鉄	續断			

躑躅	海石榴	蓬蘽	江浦草	鳶
烏歛莓	蘿葛	茅針	索吾	荊花
沙參				
合歡				
南燭	凡六名あり	梨花	丁香茄	酸棗
幼竹	弱竹	浮菖	水葱	壺盧子
其雪艸	鐵色箭	其黃櫃	束棗	
蘭	羅生門草	蔓草	落鴈木	日
			乱菊	

む

梅花 いめのゑ 梅賽 いめさき 木槿 むくげ 變豆菜 ひりぐんそう 五加 むこぎ 鼠李 ひらき

う

楊柳 うつなぎ 波流花 うのゑ 吉利子 うぐひす

か

の紫葳 のむすづ 凌霄 れいそう 地榆 のきりくま 野菊 のきく

た

く山柀 くろう 卮子 ひ 蒼苔 そうたい 箕竹 きとけ 吳竹 い 檳榔 びんろう

草牡丹 くさむたん 葛花 くわのゑ 金絲梅 きんしぼ 萱草 くせんそう 吉祥草 きしやうそう

款冬 くわんとう 威靈仙 いれいせん 熊谷草 くまぐさ

や

杜若 たじやく 八手花 やってのゑ 棟棠花 とうたけのゑ 八隔櫻 やぶさけ 柿 かき

柳絮 やなぎのこもり 江梅 やまうめ

ま

松 まつ 披 ひ 天葵 てんき 曼陀羅 まんたらか 曼珠沙華 まんじゆさげ 沙草 さそう 朝鮮 あさけん 葎 あざむね

曼珠沙華 まんじゆさげ 沙草 さそう

け

荷苞牡丹 けぼむたん 罌粟 けいりく 日月桃 げんひつめい 挾竹桃 けりちゆうめい 蕙蘭 けいらん

ふ

青陽草 せいやうそう 福壽草 ふくじゆそう 芙蓉 ふよう 蘭 らん 藤撫子 ふぢなでこ

藤

こ

辛夷 しんい 玄參 げんじん 笑靨 せうえつ 鳶尾草 とよびそう 胡蝶草 こてつそう

錦葵 きんき

け

他偷草 たとうそう 金雀花 きんせうが

て 纏枝牡丹 粉團花 丁子草 紫草 絡石

あ 蜀葵 杏花 紫陽草 木蘭 青柎

牽牛花 菖蒲 藜菜 蘆葦 葦 初生曰葦 未秀曰芦

蓬蘽 大薊 巴旦杏 泡盛草 淡雪草

さ 櫻花 杜鵑花 黃精 山茱萸 澤桔梗

三七草 茶梅 石榴 山蘭 鈴蘭 山吹也

き 桔梗 映山紅 雉子窟 金錢花 金鳳花

玉簪花 金銀花 金絲桃 銀銘竹 菊

ゆ 百合 櫻桃 壺盧 虎耳草

め 菴 陰松 天麻

み 千屈菜 水引草 美豆木 深山梅 三叔木

し 白及 紫苑 岳絲標 秋牡丹

秋海棠 茵蒿 玉蘭 蕙蘭 石南花

ひ 新正櫻 金絲桃 虞美人 美人蕉

山丹 鼓子花 枇杷 拘骨 緋桃 紫微

百日紅 睡蓮 榎桐 女榎

桃花 紅葉 楓 黄葉 木蘭 木香 樅 木犀

剪秋羅 善畧草 石竹 嬰麥 千日紅

錦葵 棟花 麥門冬

李子花 小粉團 菅 芒 芭茅 杜棠

水仙花 謂銀葉金盞者 玉玲瓏 謂深黄色而千葉者 俗名水仙

右ありゆ一正字記しぬい余と生花よりひくこと
これ多し

山吹 萩 杜若 桂 紫菀 蝦百合 八角 楊
波羅槲 龍尾草 源平菘 之若菜 芦 南天

梅子 庭槲 沉丁花 紫蘭 河骨 菊 白 色 白
夕久保

右の類文字いふ一と書きあがり相分連推し
通用をまじい改めし及する事多し一品若ある一様
二名をいれしよりあまの造式の事正字をかくも
希て心く一我類するも和國の風をもちしる事
事通ずしやはし生むの作法より和國を
本なりしやまの禮にあはれ花の名を假名
書して記ししる事一予文くくさゆくまの
事後かまはしむはしる事一少くもさしめし通れ
要ししる事一はし書ありし一はしる事

養花の事

花のやういふやう余流うく秘事の要ういふ
 免許傳授うく撰ぶれんといふ遠国波濤の
 瓶心の人うきこくを傳えしは後世花と云ふ
 人此をもちしんやあつはゆいとのまらひはたよ
 書取しぬ或人書花の書は漢土の書と云う
 生花のいふ一様くの茶と入花は書いぬ
 唐土うてら只花の志ぬまらる事おくと肝要と
 うく挿花いけら書いぬ茶を入泥とぬりて

花のえくくも山事をも我知く生花と
 床糖うき瓶中けくよそれぬ茶と入泥と
 ぬり種と事うき

- 石灰 鐘乳石 土殿 薛子 硫黄 胡椒
- 山井 鉄醬 龍骨

右陳技拙屠本暖うしが書花の法ありといふ
 うも毒ありまふ本といふまらひはく毒茶といふ
 花とやういふ泥とぬり瓶中け種と事非れの
 ぬりうき色しそれ通うくそ人の書花の書と

焼てしよーおとせれしーと馬さよ小刀め込入さく
深くも一はけをてしよーむさよとまきてしよー

○仙翁花も根ととく火さく焼小刀めとゆー入ま
次も一深くはめてしよー口傳

○菰ももさ平地の菰よー山の菰ももさとうねさ
酒さくいけをいささちりー酔せんと思ひくもさの
さかるとすもサビシ酒よひさしあはさくま
次も一はけ一はけしよーさよも酒とめけけけ
ふ侍花のさくは二歩はき切てしよー

○芦のさよ小口とさよの形りよささささささささ
まく細くささささささささささささささささ

換ぞもせまのこささささささささささささささ
はけをてしよー

○若木根を焼焦しーおとせれとて目ささささ
かーはけつこ切ささささささささささささ
深くはけをてしよー口傳

○苜蓿の類も花入の内くさくとまきめくいけさ
けさささささささささささささささささ

○鳥食夕顔の類も花入よささささささささ
ささささささささささささささささ
ささささささささささささささささ
はけをてしよー

風車やうにも出まるといふんとおしつける垣根の
けりともうしあつてせまの自然と出まらる新植
うしてさうさふとせまのうしあつてさうさふと
とへうさうしあつてさうさふとせまのうしあつて
夕ふ切ぬぬしあつてさうさふとせまのうしあつて
うしあつてさうさふとせまのうしあつてさうさふと
よー口傳

○うしあつてさうさふとせまのうしあつてさうさふと
通しあつてさうさふとせまのうしあつてさうさふと
あつてさうさふとせまのうしあつてさうさふと
あつてさうさふとせまのうしあつてさうさふと
あつてさうさふとせまのうしあつてさうさふと

よー二番若く出て秋をうしあつてさうさふと
○きんりの新茎すすのあつてさうさふと紙によつてすれ
中へ入まらうしあつてさうさふと紙によつてすれ
よふさうさふと

○牡丹若茶も根と焼焦しあつてさうさふと
深く冷水へけりあつてさうさふと紙によつてすれ
あつてさうさふと

○うしあつてさうさふとせまのうしあつてさうさふと
根と焼てさうさふとせまのうしあつてさうさふと
一夜深くけりあつてさうさふと紙によつてすれ
○あつてさうさふとせまのうしあつてさうさふと

焼くは体中をけりぬる日 完んとするは蒼と一夜
次より深くけりぬる日 較多花とゆふはけ
さかしの中よりけりぬる日 ありぬる日 せいの
強弱より一日より満月を金く
○ 根花の中へ湯と入てより 満月を散りあり 中
折じきけり

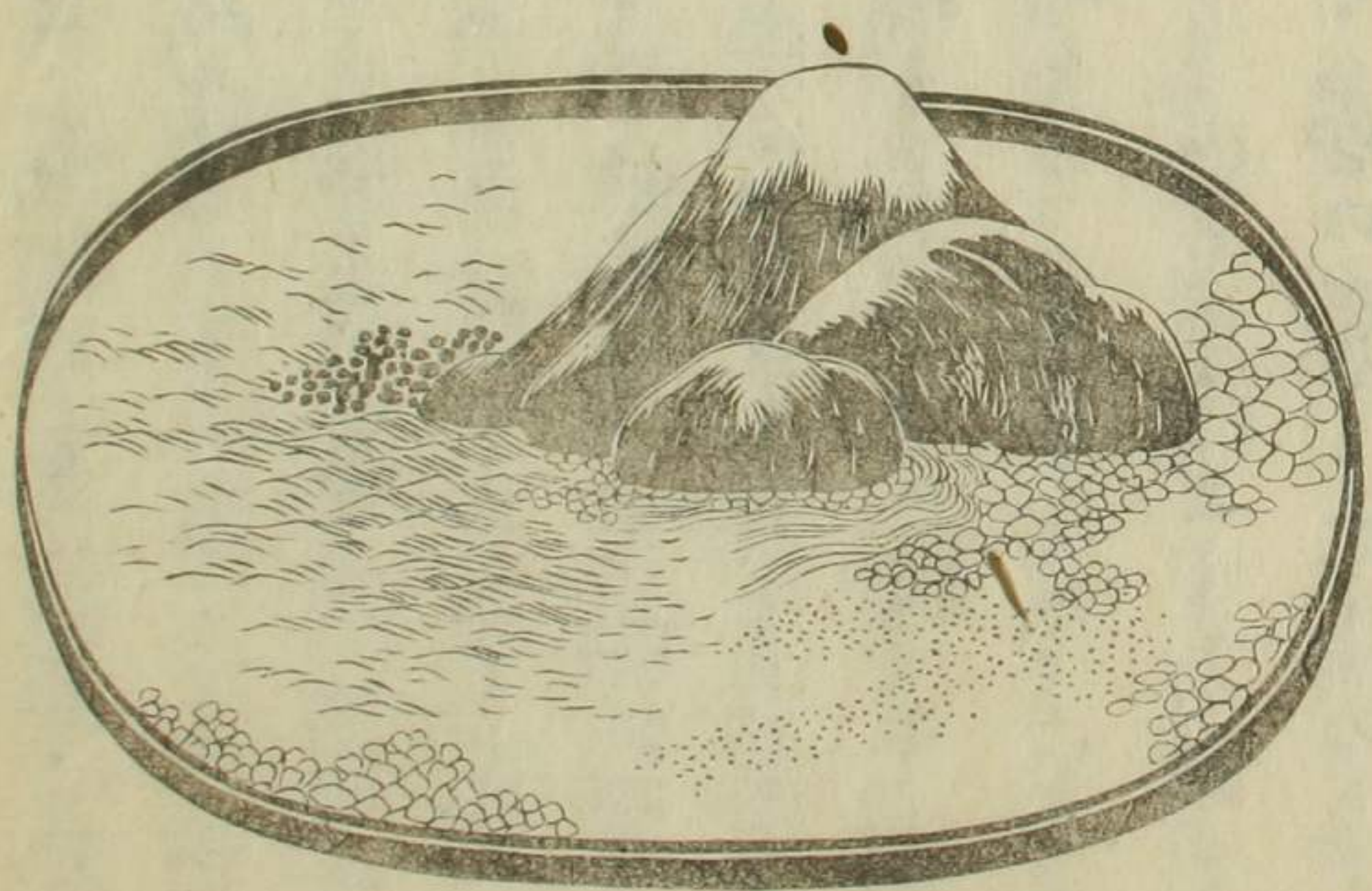
○ 湯は湯水より浸りぬる日
○ 蓮花完るはきぬる日 又花よりぬる日
ちぬるは日の海より入りぬる日 九す
深きよりぬる日 又根のふけりぬる日
内へぬる日 根完るは勿漏きぬる日 自然

中へぬる日 根完るは勿漏きぬる日 自然
事大に付あり

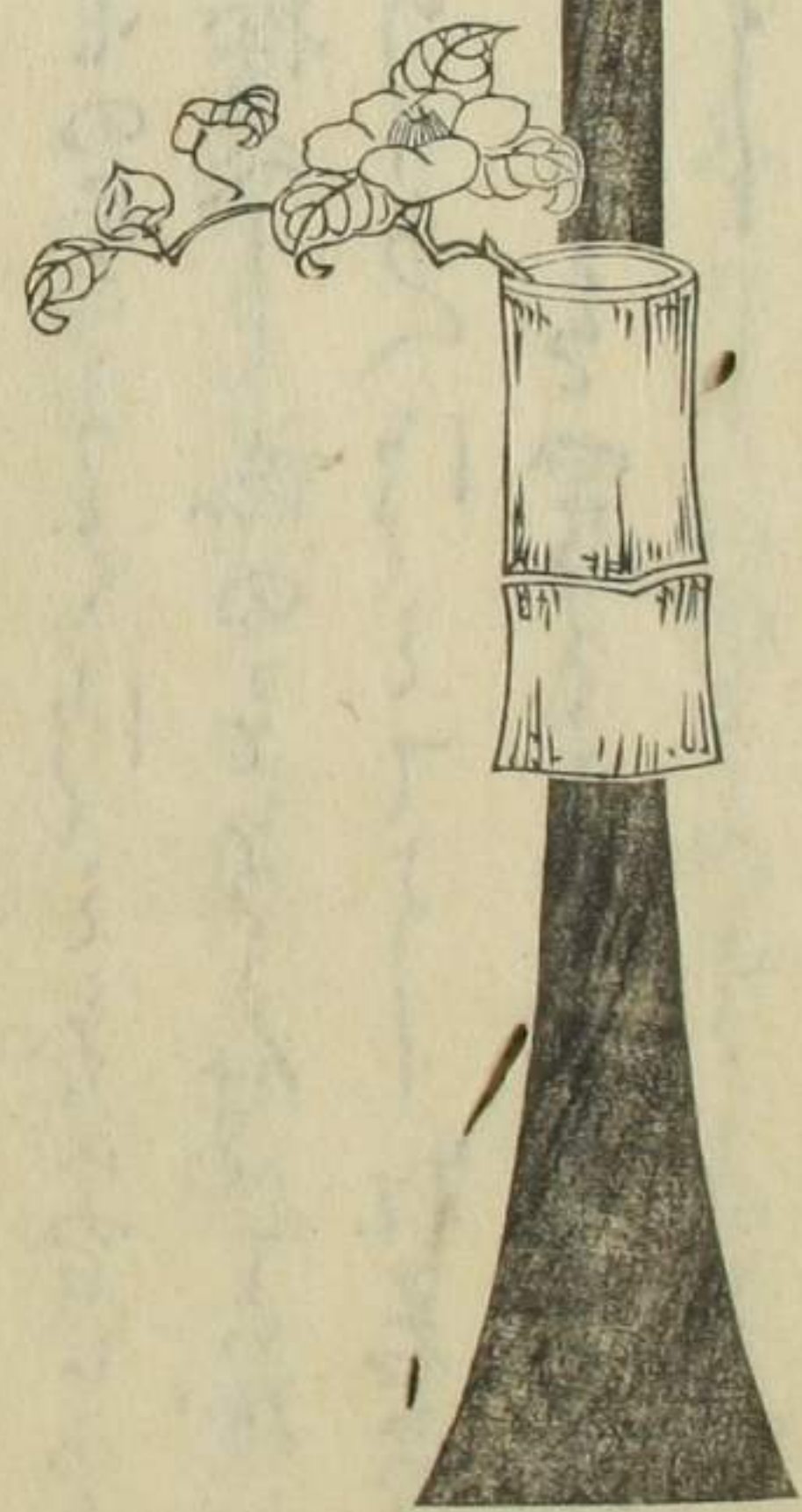
○ 竹のこぼれ糖もすてより 糸の糸一糸一糸も
もはぬ入てより 糸の糸一糸一糸も
○ 竹のこぼれ糖もすてより 糸の糸一糸一糸も
もはぬ入てより 糸の糸一糸一糸も

○ 竹のこぼれ糖もすてより 糸の糸一糸一糸も
もはぬ入てより 糸の糸一糸一糸も

盆中 假山 十躰 之内 定式 之圖



廿三



一節とよまへ
 盆中、或は昂席の花をけし、盆のくさくさ、さうじをひきまゝに入
 りし、かゝる物とさるる、一丈二寸、さうじをひきまゝ、盆に
 席にさる、あまゝ、さうじのくさくさ、さうじの類、さ
 花をさる、さうじをひきまゝ、さうじのくさくさ、さうじの類、さ
 盆にさる、さうじをひきまゝ、さうじのくさくさ、さうじの類、さ
 盆にさる、さうじをひきまゝ、さうじのくさくさ、さうじの類、さ
 盆にさる、さうじをひきまゝ、さうじのくさくさ、さうじの類、さ

廿二

石もく盆石と 東山相公 勅図と文抄ひまの床
傍と法式と定まる石と人作の及るる亦一して天地
自然の産物お涙と宝石と一解と受て君子も笑むひ
釈るも神石の一と一給ふ石の述らるる亦一と一
かゝるも一と一石と祝儀亦一れ知る一して婚式も
ふて用ゆせ花と盆石と盆を合さるる目も及
牀とあり亦一世俗婚姻と古俗と祝して石は
亦も亦と一と一謂るも盆石と亦といふも
出るる語あり石のはしと一昔漢土より盆石も
はるも亦と盆石と盆の書と盆漢の書

彫けらるるも亦一と一唐石と祝ありといえ
ともす法拾好と一と一用ひ給るも盆の亦
世事の差別自然の風系はあり一と一昔漢土を
河海に渡り亦と一と一盆と一と一亦あり
石と一と一盆と一と一盆あり岸崖深谷深
岩も盆のうらも一と一組合ても一と一亦
も亦一と一亦と一と一盆ありその中と一と一
盆と一と一盆と一と一盆と一と一盆と一と一
盆と一と一盆と一と一盆と一と一盆と一と一
盆と一と一盆と一と一盆と一と一盆と一と一
盆と一と一盆と一と一盆と一と一盆と一と一
盆と一と一盆と一と一盆と一と一盆と一と一

不谷言意う程をよとちり事多し一花よ死活
 あれい石よに死生ありよくくは傳とらるる事
 堂とくくと風早の盆石よの種と見ひきふし
 細川家より相傳りりり家のよ北種也
 東山相公花よ身なうりりあれい細川家也
 東山殿御傳とあれい因事らう盆一風早家
 よと風早の石盆と見ひきふしりり種也
 亦も當世家の石盆より事見ひきふし石盆の
 外他事より一さうとみよんくさうく事な
 けり盆也一

花の桶



花の桶 花は入の桶深きより一花よ死生
 ありあれい石よに死生ありよくくは傳とらるる事
 堂とくくと風早の盆石よの種と見ひきふし
 細川家より相傳りりり家のよ北種也
 東山相公花よ身なうりりあれい細川家也
 東山殿御傳とあれい因事らう盆一風早家
 よと風早の石盆と見ひきふしりり種也
 亦も當世家の石盆より事見ひきふし石盆の
 外他事より一さうとみよんくさうく事な
 けり盆也一

書肆

京都寺町松原下町

梅村之師玄湯

大坂心齋橋筋安堂寺町

大野木布玄坊

江戸日本橋南一町目

須原屋茂玄坊

京都堀川錦上

西村布師右衛門

江戸本町三町目

西村源六

安永二癸巳年仲冬日

